

Recycle Report

2023 年 3 月

一般社団法人日本消火器工業会
株式会社消火器リサイクル推進センター



消火器リサイクルシステム開始から累計5000万本を回収

どうして、リサイクル？

消火器回収窓口（消火器販売店等）はスマートフォンでも検索できます



スマホで回収窓口検索

左記の二次元バーコードで読み込んで検索してください。検索は「現在地から」「住所から」のいずれにも対応しています。



現在地から検索



住所から検索



地図表示画面

自治体へのお願い

自治体のホームページおよび自治体が作成・配布しているごみ分別一覧表やごみカレンダーでの当りサイクルシステムの周知活動へのご協力をお願いいたします。



PCから

消火器リサイクル 広報誌

検索

<https://www.ferpc.jp/jichitaishobo/information-magazine/>

自治体・消防関連の方には、PRツールを無料で郵送いたします

消火器リサイクル推進センターのホームページから、下記の手順で注文用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、ファックスしてください。

- 1 トップページ右上「自治体・消防の方」メニューをクリック
- 2 「PRツールのお申し込み」タブをクリック
- 3 「注文用紙」をクリック



PCから

消火器リサイクル PRツール

検索

www.ferpc.jp/jichitaishobo/prtool/



一般ユーザー向けリーフレット



チラシ・ポスター（赤：古い消火器危険です）



チラシ・ポスター（黄：古い消火器回収します）



リサイクルシステム概要パンフレット



コールセンター

お電話でのお問合せはこちらまで

03-5829-6773

（受付時間 9:00～17:00
ただし土日祝日、休日および 12:00～13:00 を除く）



PCから

消火器リサイクル窓口

検索

www.ferpc.jp/accept/



（一社）日本消火器工業会



（株）消火器リサイクル推進センター

〒111-0051 東京都台東区蔵前三丁目 15 番 7 号 蔵前酒井ビル 2 階 電話：03-5829-6773 ファックス：03-5829-6774

「RECYCLE REPORT」は消火器リサイクル推進センターが発行するニュースレターです。廃消火器のリサイクルに関する情報をお届けしています。

どうしてリサイクル？

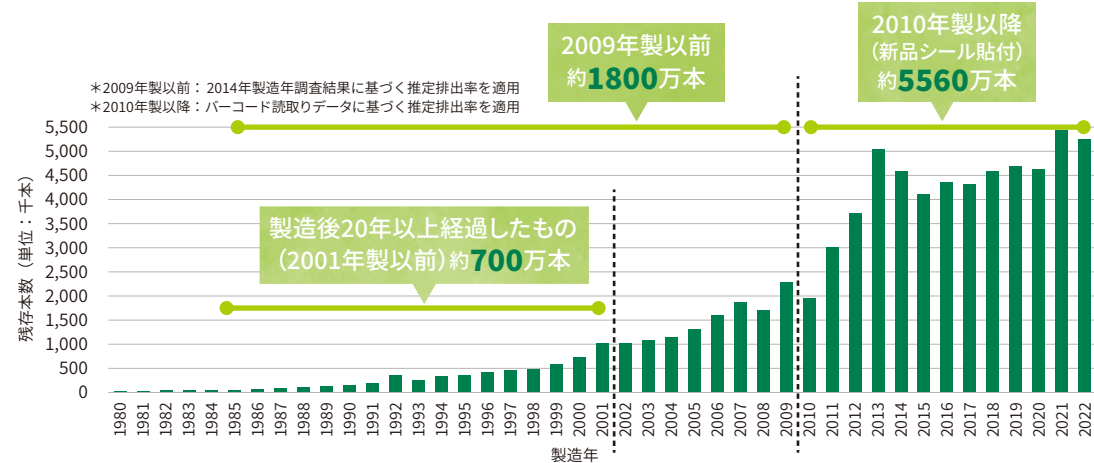
消火器の退蔵とリサイクル

消火器の使用期限は、業務用消火器でおおむね10年、住宅用消火器でおおむね5年です。一般家庭などに置かれた消火器は点検されていないものも多く、使用期限後も交換・廃棄がされずにそのまま放置されるケースもあります。使用期限を過ぎた消火器は「いざ」というときに使えない可能性があるばかりでなく、腐食や破損があると破裂事故の恐れもあります。

消火器リサイクル推進センターが行った市中にある消火器の残存推計によると、このリサイクルシステムが始まる前の2009年以前に製造され、使用期限が切れた消火器約1800万本が回収されずに残っているとみられます。安心・安全のためにも使用期限を守り期限が切れた消火器に適切な交換・廃棄をお願いします。

まずは、お近くの消火器の使用期限を確認してみてください。

消火器製造年別の市中残存推計（2022年末）



今回、算出した2022年末の市中残存本数は合計約7360万本。内訳は、新品シール付き（2010年製以降）が約5560万本（75.5%）、2009年製以前が約1800万本（24.5%）で、このうち製造後20年以上経過した老朽化消火器が約700万本（9.5%）市中に残存すると推計しています。

消火器の事故を減らす

消火器リサイクルシステムは「不法投棄および破裂事故の防止」を目指しています。家庭などで退蔵したり、屋外に放置された消火器は、腐食や破損等により破裂事故の危険があります。下の表のとおりこれまでも破裂による事故が報告されています。

消火器リサイクルシステムは、このような事故を未然に防ぐための取り組みです。古い消火器の「消火剤の放射」や「解体」は自分で行わず、消火器を処分・リサイクルする際は、回収窓口へお問い合わせください。

消火器の破裂事故（2009年以降）

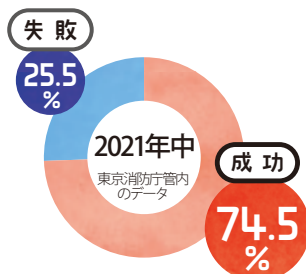
年	月	場所	事故内容	年	月	場所	事故内容
2009 (H21)	9	大阪	誤って操作、小学生が負傷	2013 (H25)	10	愛媛	原因不明、負傷
	9	福岡	廃棄中に誤って操作、負傷		11	熊本	廃棄時に操作、負傷
	9	愛知	廃棄中に誤って操作、負傷	2014 (H26)	2	山口	廃棄時に操作、負傷
	10	千葉	移動中に誤って操作、負傷		5	埼玉	原因不明、人的被害なし
2010 (H22)	2	滋賀	廃棄中に操作、負傷	2015 (H27)	11	鹿児島	訓練時に操作、負傷
2011 (H23)	7	徳島	移動中に誤って操作、負傷	2016 (H28)	5	滋賀	廃棄時に蓋を切断、負傷
	7	鹿児島	廃棄時に誤って操作、負傷		7	栃木	誤って操作、負傷
	8	栃木	廃棄中に操作、負傷		8	神奈川	廃棄時に操作、負傷
	9	大分	廃棄中に誤って操作、死亡	2017 (H29)	5	兵庫	廃棄時に操作、負傷
2013 (H25)	6	宮城	廃棄時に操作、負傷	2020 (R2)	3	愛知	消火時に操作、負傷
	7	岡山	廃棄中に操作、負傷	2021 (R3)	5	兵庫	消火時に操作、負傷

出典：総務省消防庁HP



いざという時に、いつでも使えるように

東京消防庁のデータによると、初期消火で消火器を使用した場合、成功率は7割を超えており、消火器による初期消火は大変有効であることが実証されています。しかし、消火器は使う機会がないことがよいとされており、定期点検等で触れる機会がないと意識されずに退蔵する可能性が高いため、自治体や消防関係者のPR協力が不可欠です。使用期限が切れた消火器の退蔵を減らす取り組みにご協力ください。



出典：東京消防庁「令和4年 火災の実態」

どこでもリサイクル 回収窓口は全国で約5,200カ所

引き取りを依頼 特定窓口

消火器の引き取りを行える消火器販売店で、日本全国に約5,000カ所あります。

直接持ち込む場合 特定窓口

指定引取場所

日本消火器工業会が設置したもので、日本全国に約200カ所あります。

お近くの取り扱い窓口をお探しの際は

消火器リサイクル窓口

検索

03-5829-6773

受付時間 9:00～17:00 ただし土日祝日、休日および12:00～13:00を除く

貴重な資源を有効に

リサイクルには様々なメリットがあります。私たち一人ひとりができるリサイクル活動は小さなことでも、たくさんの方が同じ目的を持って取り組むことで、大きなメリットを生み出すことができます。

粉末消火薬剤は、貴重な天然資源であるリンを原料に作られています。消火器リサイクルシステムでは、新品消火薬剤へ90.5%、肥料へ7.0%、合計97.5%をリサイクルしています。



全体 91.9%

2022年末における廃消火器リサイクルシステムによる再資源化率は91.9%です。粉末消火薬剤は、再生消火薬剤に再加工して新製品に再利用しています。本体容器（鉄、ステンレス、アルミ）やアッセンブリー（鉄、アルミ、真鍮）は、溶解処理され新しい金属製品となります。

消火器のリサイクル（再資源化）率（2022年実績）



粉末消火薬剤 97.5%



本体容器 100%



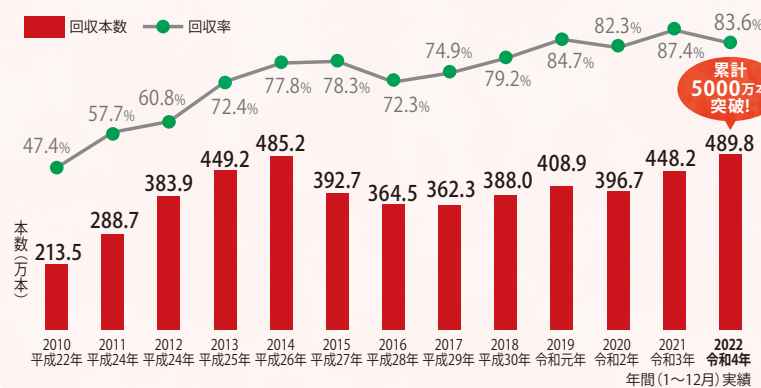
アッセンブリー（その他） 91.6%

累計回収本数が5000万本を突破！

消火器リサイクルシステムでの回収実績は、2022年末時点で5072万本となり、5000万本を突破しました。

生産本数に対する回収本数の比率（回収率）も順調に推移しています。

廃消火器の処理本数・回収率（生産本数比）・リサイクル率の推移



こんな消火器はすぐにリサイクル



本体の腐食が進んだもの、凹みや変形したもの、ホースが脱落したものなど、老朽化した消火器は、使用せずに直ちにリサイクル処分してください。



このような消火器の「消火剤の放射」「解体」は、絶対に行わないでください。

消火器には使用期限があります

全ての消火器は、本体に製造年が表示されています。住宅用消火器の寿命は5年です。期限を過ぎた消火器は販売店等にリサイクルを依頼してください。

